

先輩の新規就農者からの助言・提言

- ◆自分が本当に農業をやりたいのか、また農業に向いているのか、よく冷静に考えてから行動して欲しい。都会の生活がいやだとか、サラリーマンがおもしろくないからといったことでは生活していけないし、多くの人がやめてきた農業を継続していくことはできない。必要なのは、意欲と勇気と知恵、そして運である。
- ◆今まで学校や会社で学んできたことを自分なりにアレンジして農業に活かせるよう、生活を楽しく、農業は収入より収穫を喜びとしたい。
- ◆「最初は家庭菜園で自家用を作り、余ったら売ろう」という人が多い。日曜大工が大工になったためしはない。最初から百姓で生きるように。さもなければ趣味に止めておいた方がよい。
- ◆本気で田舎の暮らしを楽しみたいならば、経営者として地域を引っ張っていくほどの意気込みのある人でなければならない。マイナス思考の人間は農村には来て欲しくない。これから農村を自分らでつくっていくとする者は来たれ、そうでない者はやっても挫折する。
- ◆就農前と後のギャップ（頭の中で描いていたもの）はかなり出てくると思う。それをいかに埋めていくかが今後のやる気につながるのではないか。
- ◆季節によって気候も違うため、何度も候補地へ行くことによって様子も分かるし、自分の思惑との違いもはつきりする。また、何度もいくことにより、世話をしてくれる人とも親しくなれ、早く就農するための近道になる。
- ◆農業は1人ではできないため、一生の伴侶を見つけてから就農することが望ましい。
- ◆自己資金をなるべく多く確保すること。現在だと最低1千万位は必要。制度資金等は簡単に借りられないし、時間がかかるため自由に使える資金の確保は絶対必要。
- ◆資金がたくさんある場合を除き、最初から機械・資材などに金をかけない方がよい。地域の人となじめば、機械などを借りることができる。資材なども後継者のいない農家などに古いものが残っているので、それを利用させてもらう。
- ◆知らない世界に入っていくときは、多かれ少なかれ周りの人々の協力が必要である。個人主義が強すぎたり、1つの思想にとらわれすぎた人はなかなか農村社会に溶け込めない。
- ◆何でも腹を割って愚痴をこぼしたり、相談したりできる先輩がいるのと、いないのとでは精神的にも大きく違う。とにかく自分1人でどんなにかむしゃらに頑張っても、本当に何もできないものである。1人でも多くの、自分にとっての味方、アドバイザーを確保することが重要である。
- ◆できるだけ、事前に就農者の「生き声」を直接聞いておく方がよいと思う。
- ◆有機栽培の野菜の場合、市場出荷はかなり難しい。最初から販路を考えておくように。